早稲田大学大学院　創造理工学研究科

博　士　論　文　概　要

論　文　題　目

中国農村部における人民公社の設計、実際及びその影響に関する研究

-河南省駐馬店市遂平県衛星人民公社を中心に-

The Design, Reality and Influence of the People’s Commune in Rural China

The Case of Weixing Commune, Suiping County, Zhumadian City, Henan Province, China

申　請　者

余　飛
Fei YU

建築学専攻　歴史工学・建築表現史研究

2021年4月

1949 年中国建国以後、広大な中国農村部では、ソ連のコルホーズ(*Kolkhoz*)をモデルとし、農業集団化の社会主義化政策を進めた結果として、人民公社という共産主義思想に基づく社会主義的組織・建築群が誕生した。人民公社（じんみんこうしゃ、People's Commune）とは、社会主義社会における集団生産、集団生活を主とした自給自足の地域空間形態であり、行政や政治及び経済等各機能を備える一つの社会組織の基本単位である。それはマルクス・レーニン主義の普遍的な原則に従って、毛沢東思想のもとに推し進められたものとして、近代中国史ひいては世界史上にかつてない実践でもあった。結局、1983 年に農村部の社会組織基盤としての人民公社システムは解体された。これまで社会学、史学、経済学など各領域で人民公社に関する数多くの研究が進められているものの、建築領域での研究は数少ない。その成果の一端において、人民公社は西洋先進国以外でのモダニズムの実践として重要視しなければならないとされた。しかしながら、人民公社の地域計画から建築計画の詳細に至るまでの経緯やその史的評価への検討は皆無と言ってよい。

本研究は、人民公社の設計に関する一次資料の紹介・分析ならびにその実際の建設物の実地報告を通して人民公社の地域、建築計画ならびにその様式を、近代建築史上に位置付けようとしたものである。さらに、本論文では、1972 年日中国交回復後に発足した建築専門の学術・技術の交流組織であった「日中建築技術交流会」（1973-2003）の訪中活動とその出版物の記録を通して、吉阪隆正をはじめとした日本人建築家たちによる人民公社像という国外からの評価も研究視野に入れている。

序論では、研究背景と目的、先行研究、研究方法および本論文の構成について述べた。歴史学や社会学の諸分野における人民公社に関する先行研究を概略的に紹介し、次に建築学領域において中国と日本の研究者たちの関連研究を整理した。先行研究を踏まえた上で、本論の位置付けと研究方法の提示を行った。

本論は 1～5 章から構成される。

本論第一章「人民公社の設計における居住区域の配置計画」では、まず 20 世紀後半期に中国の農業協同化運動に関する正式な政策を整理し、人民公社の発生や発展、解体などといった歴史背景を概略的に把握し、毛沢東思想の中で公社に関する構想を論じた。その上で、人民公社の先駆として最初期に成立した河南省の「衛星人民公社」を選定し、中国建築学会誌である『建築学報』に掲載された当時の衛星公社計画案に注目し、広域的に人民公社の居住区域の計画案に用いられた手法の分析を踏まえて、西洋からの近代都市計画思想と人民公社構想との関係を従来の研究に比べてより厳密に考察した。

具体的に言うと、衛星人民公社計画案の設計組織である華南工学院建築系の専門家たち（以下、華工）は以下の三段階に従って配置計画をした。第一段階とし

てはまず、農村部における点在する各伝統集落を、核を有する幾何学的形状のコミュニティー（居住区域）に概念上還元した。そこで第二段階として、華工は農民の耕作活動を中心（居住区域から耕作地までの実際の徒歩距離をベースに、道路や地形の要素を加味して得られた数値を「耕作半径」と定義）に、一つの居住区域を円形の範囲として想定し､円形の中心点に住宅や､生活施設などを配置し、境界線に耕作地を配置した。円形のモデルを用い、居住区域の幾何学上の中心点とその境界線を確定することによって、農民の移動時間を平均化することに成功している。さらに、第三段階として、華工は「衛星式」と呼ばれる配置モデルを採用した。その配置モデルでは、いくつかの規模の異なる居住区域が同地域内に存在し、末端の居住区域がより中心の居住区域の公共施設を利用できるように、各居住区域同士の境界線が隣接するよう配置されている。

吉阪隆正らによって提唱された「圏域的計画論」を踏まえた上で、上述した同公社の居住区域配置モデル「耕作半径」と20世紀前半にアメリカの計画家クラレンス・ペリーが提唱した「近隣住区」理論の「サービス半径」と比べると、規模や具体的な目的が異なるものの、通勤通学圏の理念、中心・周辺・境界によって構成されている空間構成の把握方法に一定の類似性が認められる。その共通点は「生活圏」という基礎概念に基づく圏域的な考えであることを明らかにした。

本論第二章「人民公社の設計における公共建築の建築様式」では、同衛星人民公社計画案の中で公社センター「公社中心」の建築群の設計案に注目し、一つの居住区域の配置計画と公社の建築様式を検討した。また当時中国に持ち込まれたソ連由来の社会主義リアリズム、西欧由来の 20 世紀初頭以降のモダニズムと農村人民公社の公共建築の様式との関係について考察した。

まず、華工は当時ソ連に由来する都市計画モデルの一つである「小区」を農村部人民公社の計画に援用すべきことを文書で明示しており、具体的な計画においてもソ連からの「周辺式」パターンの影響が反映されたことがわかった。

また、同公社の中心建物である「弁公楼」（役場機能を持つ）の設計において、建物の平面・立面構成は「大屋根様式」（社会主義リアリズムをもとに提案され、近代的な鉄筋コンクリート構造の躯体に中国伝統的な屋根や装飾を付加させた建築様式）を踏まえつつ、その屋根にル・コルビュジエの「輝く村落」の特徴的な連続するバレル・アーチ型（かまぼこ状）の屋根からの影響が認められた。それは、1950年代の中国において、社会主義リアリズムや、モダニズムの方法論のみで建てられることが批判対象になり得たからであった。つまり、華工は同公社の公共建築の設計において、それらの影響をベースに、両者を統合されるような解決を提案したのであった。

本論第三章「人民公社の設計における居住建築の設計方針」では、人民公社制度の下で、生産・生活方式の変遷に伴う公社社員たちの居住建築の設計について検

討した。華工による衛星人民公社の事例の分析を通して、彼らは居住建築の設計において意識的に同公社の伝統的な住宅の平面配置と日当たりとの関係や、居住実態ならびに経済といった現実条件を尊重して地域主義的設計案を創出したことを明らかにした。その方法に反映された経済性と合理性を重要視する理念は当時の中国建築界における一般的な居住建築の設計動向と比べると、大きな差がなかったことを確認できた。それは、当時の中国共産党中央によって提唱された「実用性と経済性、そして条件が満たされた場合にのみ美観に注意すること」（适用、经济、在可能条件下注意美観）という基本方針に従った結果であったが、華工はその方針に基づいて伝統的住居を調査し、その特性を計画に反映した。

本論第四章「衛星人民公社の実際」では、河南省駐馬店市遂平県に位置する衛星人民公社センター旧址(現衛星人民公社旧址博物館)での現地調査結果に基づき、計画案との相違を明らかにした上で、衛星人民公社の建築群の地域性特徴を考察した。まず、同公社センター建築群の全体配置は、中軸対称で建築を配置している点は計画案と共通していることが明らかになった。また、公共建築（弁公楼を例に）の様式の特徴について、単純な長方形の平面形式と屋根、躯体からなる立面の構成が元計画案と類似している一方、屋根の形態が「大屋根様式」の屋根でも、華工によるバレル・アーチ型でもなく、簡素な切妻屋根であることが判明した。その簡素な屋根様式は、地元の古い民家の構造方式に従って援用された結果であった。以上、人民公社の建設において、専門家による近代的計画手法と地方の固有の伝統的な構法が反映されたことを明らかにした。

本論第五章「日本人建築家の見た人民公社像 -日中建築技術交流会誌『日中建築』を中心として-」では、1972年日中国交回復をきっかけに発足した「日中建築技術交流会」の設立から解散に至る沿革を明らかにし、日本人の建築家たちの目が見た人民公社像を分析した。同会誌の中に人民公社に関連する記事の整理・分析によって、当時訪中団の日本人建築家らに対して、人民公社は中国農村部に存在した地域自治の基礎組織であり、国民生活向上の実現の方法において世界的に独特なものとして位置づけられたことを指摘した。さらに、代表的な日本人の建築家吉阪隆正は、人民公社の建設における地域固有の伝統的な要素に基づく造形の誕生において期待を寄せていたことを指摘した。最後、1960年代前後の世界近代建築史の背景を踏まえた上で、人民公社における地域的特性の史的評価を記した。

結論では、本論の各章の要約を述べ、人民公社の地域・建築計画から実現に至るまで形成された計画的特徴を総合的にまとめた。その上で、1970年代の日本人建築家らの訪中活動を通して、人民公社並びにその建設過程に現れた地域の固有要素を重要視する理念は、西洋先進国以外の国での建築を近代化するための合理的なアプローチの一つとして位置づけられた。

早稲田大学　博士（工学）　学位申請　研究業績書

氏名：余　飛　　印

（2021年3月現在）

種類別	題名、　発表・発行掲載誌名、　発表・発行年月、　連名者（申請者含む）
○論文	人民公社の設計方針からみた地域主義様式の形成過程　−河南省駐馬店市遂平県「衛星人民公社」案の事例と通して−，日本建築学会計画系論文集，第86巻，第780号，pp. 649-656，2021年2月，**余 飛**、中谷 礼仁
○論文	人民公社の設計における居住区域の配置計画の方法論に関する研究　−河南省駐馬店市遂平県「衛星人民公社」案を事例として−，日本建築学会計画系論文集，第84巻，第766号，pp. 2669-2677，2019年12月，**余 飛**、中谷 礼仁 （Methodology of master planning in the design of People's Commune-Case study on the plan of Weixing Commune, Suiping County, Zhumadian City, Henan Province-，Japan Architectural Review，Vol.3, No.4, pp. 542-551，Oct.2020，**Fei Yu** and Norihito Nakatani）
講演	中国農村部における人民公社に関する研究−その１−　華南工学院と『人民公社建筑規划与设计』について，日本建築学会大会学術講演梗概集，建築歴史・意匠，pp. 1011-1012，2019年7月，**余 飛**、中谷 礼仁
講演	The Characteristics of People's Commune in Rural China-Case Study on Chayashan Weixing Commune, ISAIA2018, Korea, Oct.2018, **Fei Yu**
訳著	運動的大地，住居的形状−−板塊辺界之旅，中谷礼仁著、**余 飛**等共訳，中国建築工業出版社，2021年9月（予定） （日本語原著：動く大地、住まいのかたち——プレート境界を旅する、中谷礼仁著、岩波書店、2017年）
著書	（中国語版）勒· 柯布西耶的80個公共建築，**余 飛**編著，中国広西師範大学出版社，2021年7月（予定） (English Version)Great Architects Redrawn: Le Corbusier Public Buildings, **Fei YU**, Images Publishing Group, 2021.7